4月以降の完熟モズクの出荷を

沖縄県もずく養殖業振興協議会が方針

【那覇】一部既報＝沖縄県もずく養殖業振興協議会は11月29日の臨時総会で、来年度の本モズク目標生産量を今年の目標量より5000㌧も大幅減の1万㌧とした。

2004年以来4年連続で目標量を2万㌧に設定してきたが、04、05年の不作続きで供給不足となったが、06年は一転豊作で1万9833㌧、07年は過去最高の2万11㌧の高水準。この両年が供給過多が現在の7300㌧という在庫量増大の大きな要因になった。相場もここ2年キロ当たり100円から100円割れし80円。さらに下落傾向で推移している。

臨時総会では、収穫時期や品質面の方針についても確認した。品質の維持管理では、①完熟モズク生産に努める②異物除去を徹底的に行う③塩蔵モズクの塩分濃度は原則20～25％④「生産者のための管理マニュアル」「モズク一次加工場品質および衛生管理の手引書」を再度確認し、順守一の対策を挙げた。さらに、収穫開始時期は消費者に高品質のモズクを安心・安全に提供するため、4月初旬からの収穫をめどに各産地で生育状況を見て判断、決めるとした。

早出しモズクについては、価格形成が不安定で4月以降の完熟モズクに比べ品質が安定していないとの情報があることから、品質の高いモズクの提供を呼びかけている。

同協議会幹事会から、1次加工業者や生産者らとの事前会議の内容も報告された。消費者離れがあり、本土加工業者の中にはモズク加工品製造からの撤退業者も出ているという。予算を国、県などから獲得、消費拡大のPR活動に力を入れるべきだという意見も出たという。1次加工業者からは品質の悪いモズクは買わないようにすべきだという意見も。

一方、モズク商品を海外に出荷している業者からは長年の努力が実り引き合いが出ており、今後海外展開は有望との声もあったという。

臨時総会に出席した久米島漁協の生産者からは「生産数量抑制も大事だが、価格が1キロ100円を割った場合、取引をしないことを徹底してほしい。厳しくなるとキロ50円、60円でも浜業者に売る生産者が出てくる。このようなモズクが全体価格を暴落させる原因となっているため、執行部は100円以下の取引をストップするよう取引業者に伝えてほしい」との要望も出た。

下地敏彦県もずく養殖業振興協議会会長（県漁連会長）は「決まったことを強い意志で実行しなければ、来期のモズクはますます下がっていく。今が正念場だ」と述べ、本モズクの目標生産量1万㌧を各生産漁協が守るよう訴えた。

目標生産量順守と高い品質のモズク出荷を呼びかける下地会長

みH1202面10　4月以降の完熟モズクの出荷を